

事業・工事名

ボーリングNO.								
----------	--	--	--	--	--	--	--	--

ボーリング名	B-2	調査位置		北緯	36° 33' 41.7600 "		
発注機関	栃木県宇都宮土木事務所	調査期間	2008-10-14 ~ 2008-10-15	東経	139° 49' 52.8200 "		
調査業者名		主任技師		現代場代理人	コア鑑定者	ボーリング責任者	
孔口標高	123.76 m	角上 180° 90° 方 270° 西 180° 南 地盤勾配 鉛直 90° 水平 0° 0.00°	試錐機		ハンマー落下用具		
総掘進長	8.00 m	度下 0° 0.00°	エンジン		ポンプ		

標尺	層高	厚	深	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	地層岩体区分	孔内水位(m) 測定月日	標準貫入試験					原位置試験		試料採取 深度 採取方法	室内試験	掘進 月日	
												深度	10cmごとの打撃回数			貫入量	深度	試験名および結果				
													0	10	20							貫入量
(m)	(m)	(m)	(m)									(m)			(m)							
1	123.21	0.55	0.55		盛土・黒ボク(BS/Kb)	黒		軟らかい	黒ボク土を材料に表面30cm程は含水上位で非常に軟質。		10/14 1.05	1.15							B-2-1	土の段層向による圧縮傾向		
	122.86	0.35	0.90		ローム(Lm)	茶褐			含水中～上位で硬度は中位。粘土質を呈し、粘性は上位。			1.60	1/25		1/20	2/45			B-2-2	砂質土の圧縮傾向		
-2					凝灰質粘土(CH)	茶灰		中位	火山灰土が水成作用により粘土化した地層。 やや軟質な土性にあり、粘性上位で含水中上位。 1.05mに滲み出し水確認。 2m付近より、粘性の低下と硬度の上昇が見られる。又、不均質に少量の粗砂混在。		2.15					5/30			B-2-3	砂質土の圧縮傾向		
3	121.06	1.80	2.70		粘土混り砂礫(GS-C)			密な	φ10～30mmの円・亜円礫を主体として、3～5cm程度の片状コア(推定φ80～100mm位)の玉石を混在する。 マトリックスは多くの細粒分と中～粗砂から成り、隙間を密に充填する。自立性に優れ、孔壁は安定している。特に上部2m周辺への細粒分含有が顕著。		10/15 3.80	3.15				31/30						
4								緩い				3.45	9	10	12	26/30						
5									5～6m間、中～粗砂が多く目立ち、幾分かルーズで崩壊し易い。 6m以深、φ40～60mmの礫が多くなり、コア長10cm(推定φ150～200mm)の硬質玉石を確認する。 又、5.5～6m掘進時に地下水出現し、3.80mまで上昇、安定する。 7.7m付近より、φ50～80mm前後の大礫が多く見られる。		4.15					26/30						
6						茶灰		密な				4.45	9	8	9	27/30						
7												5.15				27/30						
8	115.31	5.75	8.45									5.45	8	10	9	39/30						
												6.15				39/30						
												6.45		11	13	15	41/30					
												7.15				41/30						
												7.45		12	14	15	44/30					
												8.15				44/30						
												8.45		12	17	15	30					10/15